

環境の変化が多かった中で臨機応変に対応していた

経験が今に繋がってるかもしれないな

語り手 松波（旧姓 高倉）利佳（高校一期生 専門商社） 高校時代の友人 林（旧姓 石井）百合子（高校一期生 中学校教員） 聞き手 藤谷里彩

松波利佳：（松） 林百合子：（林）

一期生が見た、あの頃の立守

―まずどうして立命館守山高校に入学しようと思ったんですか。

（松） 正直言うことやっぱり大学と繋がってたからっていうのが大きかったかな。それに一期生やったから、どんな学校になるのか全然分からへんくて、逆にそこがちよっとワクワクした部分もあるよね。

―一期生でしたら入ったときって自分たちの学年しかいなかったんですか。

（松） ううん、守山女子高校が立命館守山になったから、私らが入学したときは守女の先輩たちが在校生として普通にいた。校舎もそのまま守女の校舎を使ってた。あ、今回のインタビューのために色々写真を持ってきたんだよ。（写真を探しながら）その時の写真はないよな―。土足やったからもう教室砂だらけ。

―今も土足で雨の日とか汚れています。もっと校舎の話聞きたいです。

（松） 廊下が外やったから冬はもうとりあえず寒かった。

（林） ベランダみたいやったよな。

（松）（卒業アルバムの写真を見せながら）こんなに綺麗になったのは

二年生からかな。

―（写真を指しながら）これは今の校舎ですよ？

（松） そう、これは今と一緒の校舎やね。私らが一年生のときはまだ食堂とかもなかったんだよ。お昼になるとおばちゃんがパンを売りにきてくれて、チャイムが鳴った瞬間、ダッシュでみんな買いに行ってたのめっちゃ覚えてるわ（笑）。

―そのダッシュしてる光景今と変わらないです。もう争奪戦すぎて

（笑）（卒業アルバムの写真を見て）あつ、こっちは学食ですか。

（松） ううん、これは食堂出来てからの写真。よく学食のささみチーズ食べてた。

―え！ 私も食べたことあります。変わらない定番なんですね。

（林） カフェテリアツツね。今もそうやって呼んでるん？

―いや私はカフェテリアって呼んでいます。カフェテリアツツって響き、とってもおしやれですね。

（松） 私らが二年の時に校舎を移動して、そのカフェテリアの名前を何にするかって言うのが公募で募集されて。最終的に選ばれたのがカフェテリアツツやったな。

―一期生だからこその話ですね。本当に学校と一緒に作っていった感じが伝わってきます。

（松）（二年の最後にクラスで作ったものを指しながら）うわー懐かしいこれ。〇〇ランキングやん。

（林） 時代感じるな。今はこういうのやらん方がいいかもね。

（松） えー面白いのに。まあ確かに、もし今「合コン好きそうな人」っていうランキングとかやったらアウトか。時代だね（笑）。

―これって全クラス作ってるんですか。

(松) どうやったけ作ってたんなー。一年の時は覚えてないけど、二、三年で作ったってことは割とどのクラスも作ってたんちゃうかな。―えっこれってクラスで自主的に作ってたんですか。

(松) そうやったんかな。でも先生に「作ったら」って言われて作ったクラスもありそう。

団長として走り抜けた体育祭―文化の交差点

―(写真を指さして) これは体育祭ですか。

(松) この写真いつの体育祭やったかな、一年のときかな。でも三年が一番おもろかったし印象に残ってるな。

(林) うん。楽しかったな。めっちゃ覚えてる。

―三年のときに団長されたんですよね。

(松) そう団長してた。

(林) そうそう。それで私が副団長やった。

(松) 二人とも声が大きかったからみんなの前で話すのは得意やったんかもしれないね。

―一、二年のときは守山女子と一緒に行事をやったってことですよ。結構珍しいですよ。

(松) うんそうやね。合同は珍しいと思う。立守と守山女子と一緒にやってたから文化が違うくて。先輩が卒業して自分たちが三年生になったときに、体育祭が確か記録会に変わってん。でも私たちは一、二年生のときと同じようにお祭り気分、確か各団で女子は編み込みしてたり、男子はワックスつけてたりする子がたくさんいたんかな？ そしたらみんな並んでいるところに先生やってきて、「そんなんやったら競技させへんから」って言われて大揉めしたなあ。私たちからしたら「去

年までは先輩も同じことをしていたのに、どうして今年だけこんなに怒られるの？」という思いがあって、先生と話したんよなあ。そしてその次は生徒会の人と小一時間くらい意見をぶつけ合った。(笑)。でも保護者を待たせてたから、一旦団長だけで話し合って、その結果私から謝って全員で髪の毛を元に戻そうってなった。髪戻すために水道あるところが長蛇の列になった光景、今でも覚えている。(笑)。

―すごい。それは記憶に残りますね。

(松) そうそう。まあ揉めはしたんやけど、その後応援合戦やったし切り替えて各団盛り上げて頑張ろって団長たちで盛り上げた。最終的に優勝してトロフィーもらってん。めっちゃ良い思い出やな。

(林) ほんまに利佳はリーダーやったなあ。

―そうなんですね。(笑) すごい楽しかったのが伝わってきます。

海の方こうで見つけた小さな冒険―海外研修の記録

―(海外研修の写真を指しながら) この実行委員ってなんですか。

(松) あ、資料持ってきたよ。こういうしおりを自分たちで作ったんだよ。カナダに行ったんやけど、フェアウェルパーティー楽しかったな。ホストファミリーを招いて、みんな日本語全く分かったのに、日本語で「風になりたい」歌った(笑)。

―こんな丁寧なしおりを自分たちで作れるのめちゃくちゃすごいですね。結構本格的ですし。

(松) 百合子を作ったページがどっかにあったはず。なんかね、私らの代で何人か一年の時に先に留学行ってた子たちがいて、その子らが持って行ったほうがいいものとか現地の言葉リストみたいなものを書いてくれてた。(しおりを見て) あーあったあった。困った時に使えるフレー

ズだって。

(林) (しおりを見て) 手書き感すごいな。

(松) 何したっけなー海外研修。ボランティアとかしたな。あとナイアガラはすごい覚えている。あつ、カナダとアメリカの国境超える時めっちゃ怖かった。入国審査がバスの中であつたんやけど、「今から国境越えますので私語しないでください」って言われて、めっちゃ緊張感走ってた。で入国審査官がバス乗ってきてOKどうぞって感じ。

ー海外でそれは怖いですね。私は海外研修でドイツとポーランドの国境越えましたが全然何もなかったです。私ホテル泊やつたんですけどホームステイでしたか。

(松) えーすごいホテルなんや。ホームステイやった。帰国後に友達のホームステイ先の男の子が日本に遊びにきてみんなで集まろうってなつたんやけど私インフルエンザで行けへんかったな。あれは悔しかった、ーえーそれは残念でしたね。海外研修中に何かハプニングとかなかったですか。

(松) 私は運が良かったんかもしれんけど、すごい良いホームステイ先やった。ホストファミリーにいろんなところ連れて行ってもらえた。そのときカナダで松坂大輔の試合があつてそのチケット取つといてくれて見に行ったな。でも全員がこんな恵まれてたわけではなくて、ホストファミリーとうまく合わへんくて、途中家から追い出された子とかもいてそれはほんまにやばいって思ったな。

ー自分やつたらぞつとします。ホームステイ先でだいぶ変わるって言いますよね。何か他にしたことありますか。

(松) 学校終わった後に友達がいるホストファミリーのお家に遊びに行きたくて、自分のホストファミリーに言うために先生に英文教えても

らって丸暗記して帰った(笑)。もちろんちゃんと伝わって無事に遊びに行けたよ。でもその帰りが怖くて。友達のホストファミリーのおばあちゃん、私のホストファミリーの家まで車で送ってくれることになったんやけど、「家教えてね！」って言われて。私も家への道が分からへんから、車の窓から必死に外みて家探した。その車内で、初めてスカンクの臭い嗅いだ。めっちゃ臭かったけど日本では経験できひんことやったなって今では思う(笑)。

キャプテンたちの全力青春

ー部活動での一期生ならではの話ありますか。

(松) 部活のアメフト部と男子ハンドボール部とかは私らの代から新しくできたと思う。今まで守女やったから新しく作られた部活いっぱいある。あ、吹奏楽部もやった気がする。

(林) サッカーとかもやんな。男子の部活は全部そうやったよな。

(松) でも剣道は昔からあった。ソフトボールも元からあったやんな。

(林) うん、元からあったな。

ー剣道部でしたよね。当時立守の剣道部は強かったんですか。

(松) 守女の先輩はインターハイ行つてたな。私らも武道場前に写真が飾られてた気がする。結果は覚えてないや(笑) あの頃のつながりはずっと続いてて、今でも先輩とか後輩とご飯食べに行ったり、結婚式も呼んでもらったりもしてるよ。

ー今も剣道場の前にいっぱい賞状置かれています。

(松) (写真を指しながら) あ、これ百合子。

ーソフトボールですね。これって立ち位置的にキャプテンですか。

(林) うん、キャプテンやった。

(松) キャプテン会やってたな。女子の部活のキャプテンだけでご飯会やって、二回くらい開催してたな。あ、あと剣道部のラインはまだ動いてる。「練習来てください」って。

(林) 全然話変わるけど、利佳って、すごい負けず嫌いやんか。そういう力ってやっぱ部活動で培ったの？

(松) あはは、インタビューしてくれるの(笑)。忍耐力はつきました。あと上下関係学べたかな。昔やったから今よりも厳しかったと思うね。でもなにくそ精神でやってた。そう思うと、負けず嫌いなところは部活で培ったかもね！

―毎日部活とかってあったんですか。

(松) うん毎日部活やし、遠征も多かった。荷物も一年生が持たなあかんかったな。先輩が試合出て、出ない私らが荷物持ち。

―うわー大変ですね。

一期生が切り拓いた道―現在に活かされていること

―体育祭で団長されたり、部活で部長されたりしてるの聞いて思ったんですけど、前に出るのが好きなタイプだったんですか。

(松) そうやなあ。でも団長は自分で「やります！」って感じではなかったんよ。お願いされたかも。クラスの子が「団長やってほしい！」って言うってくれて立候補した。

(林) でも「前に出るのが好きですか」っていう質問の答えは「はい」やろ(笑)。

(松) そうやな、好きやったかも。人に言われてやるよりかは自分で決めて動く方が多かったかな。

―その考えは今も続いていますか。

(松) うん、今もやな。社会人になってからも自分の意見ははっきり言ってると思う。

―高校での経験が今に生かされてるって時ありますか。

(松) 守山女子って文化から立命館守山っていう文化に切り替わって先生たちの「これから立命館を作っていくかな」っていう想いを感じてた。あと他の附属校に並ぶレベルにしないと、とかも思ってたんちやうかな。私たちの先輩は守山女子の人たちやったから、文化の違いみたいなものがあつた。先生の中でも守女の人にはこういう感じ、でも立命館守山はこうあつてほしいみたいなものが多分あつて、今思えば、それに臨機応変に対応していかないといけない部分が結構あつたかも。たとえば海外研修とかで部活を休まないといけないときも「なんでそんな長期的に休むん」っていう空気感とか。当時は自覚なかったけど、環境の変化が多かった中で臨機応変に対応していた経験が今に繋がってるのかもしれないな。こういう考えの人もいるなっていうことは仕事でも結構あるから、立守に行ったことは、良い経験にはなったとすごい思う。ちよつとおかしいって思ったことは、私だけじゃなくて周りのみんなもちゃんとやってたよね。

(松) 他の学校から来た先生とか、初めて先生になった人とかもいたけど、やっぱ先生も立守一年生で色々分かったことあつて、私も一期生で何も分かってなかったからお互い探り合いやったと思う。だからとりあえず物申す物申す(笑)。おかしいんじゃないですか。でもそれは喧嘩とかじゃなくて冷静に話してた。「私たちは違うと思います」って言うのは割とあつたかな。

―生徒会には入ってはなかったんですよね。

(松) 入ってないよ(笑)。普通に教室で言ってた。友達が先生に意見したとき、校内放送で職員室に来てくださって呼び出されて、行ったら「ごめんね」って謝られたりもしてた。なんかこういうのは高校ならではやったから結構壮絶やったかも。まあ良くも悪くも今には繋がってるかもしれない。

—なるほど、ありがとうございます。中学校のときから前に出るのは好きだったんですか。高校からですか。

(松) 中学からかな、生徒会副会長やったし。体育祭も一番前でソーラン節踊ってたし(笑)。部活も割といいところまでいったから。でも高校入ったらそういう子が多くてびっくりした。前に出れる子いっぱいやなつて。

高校卒業から現在の仕事まで

—ちよつと飛んでしまふんですけど、現在の仕事の話を聞いてもいいですか。高校、大学卒業からの流れとか。

(松) 仕事なあ。まず私は理工学部に進んだんやけど、就職は理系じゃなくてブライダルの会社に就職して接客とかしてた。ただ配属先は人事部の採用担当やったんよ。

—人事部ってどういう仕事するんですか。

(松) 面接して採用して……、あとはビジネスマナーとか、敬語、メールの書き方とかの研修もしてる。その他にも、気になる子は面談したりもしてるかな。

(林) 今の仕事についても説明しといた方がいいんちゃう。

(松) ブライダルを八年勤めたんやけど、転職して今は医療・福祉系の商社で同じ人事採用研修担当をしてる。インフラを支えている会社か

な。

—すごい重要なお仕事されているんですね。その会社はいつから働いているんですか。

(松) うーん、五年くらい前かな。

—あつ、もしかしてちょうどコロナの時ですか。

(松) そうそう。ブライダル業界はコロナの影響が大きくて、お給料も結構下がった。あとそのくらいに結婚もしたから働き方も変えたくて転職した。ブライダルの仕事は好きだったけどね！

—なるほど。大学や仕事において立守の経験が役に立ったときとかあります？

(松) 私らの時代はiPadとか今より普及してなかったけど、パソコンを使った大学の授業もあつて、私は特に理系やったから大学に入學した時も抵抗なく授業に取り組めたかな。あと、パソコンは社会に出たときに、ブライダルだったからかもしれないけど、周りの方よりも自分詳しいなって感じたかな。だから私はカレッジ制度(終業後に自分の好きなこと学べる制度)のパソコンの先生に任命された。取締役とか偉い人にパワポとかExcelの使い方とか教えたのもいい経験になったかな。色んなところで立守の経験が役に立っていると思うよ。

—なるほど。高校時代から現在までのたくさんのお話ありがとうございます。一期生で新しい学校をつくるという貴重な経験が、今も活かされていることがインタビューから伝わってきました。

## 【感想】

一期生であるが故に文化や環境の違いにより苦悩されていたが、そこで得た臨機応変さを卒業後に発揮されていることが印象に残っている。



右：語り手 松波利佳さん  
中：語り手 林百合子さん  
左：聞き手 藤谷里彩

また、高校生のときから自分の意見をはっきり言えるところ、部活に行事に本気で取り組む姿に憧れを感じた。私は、前に出ることが苦手で自分の意見を言えないときが多いが、今回の聞き書きを通じて、私も自信を持って何でも挑戦していこうと思った。